

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ルナベル配合錠 ULD
(英名)	LUNABELL tablets LD
(規格・含有量)	1錠中、ノルエチステロン(日局)1mg、エチニルエストラジオール(日局)0.035mgを含有
(一般名)	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール配合製剤
(メーカー名)	日本新薬
【薬価収載日】	2013年6月
【薬価】	1錠:336.60円
【薬効コード】	872482
【薬効分類名】	月経困難症治療剤
効能・効果	月経困難症
用法・用量	1日1錠を毎日一定の時刻に21日間経口投与し、その後7日間休薬する。以上28日間を投与1周期とし、出血が終わっているか続いているかにかかわらず、29日目から次の周期の錠剤を投与し、以後同様に繰り返す。
禁忌	<p>①本剤の成分に対し過敏性素因のある患者</p> <p>②エストロゲン依存性悪性腫瘍(例えば乳癌、子宮内膜癌)、子宮頸癌及びその疑いのある患者[腫瘍の悪化あるいは顕性化を促すことがある。]</p> <p>③診断の確定していない異常性器出血のある患者[性器癌の疑いがある。出血が性器癌による場合は、癌の悪化あるいは顕性化を促すことがある。]</p> <p>④血栓性静脈炎、肺塞栓症、脳血管障害、冠動脈疾患又はその既往歴のある患者[血液凝固能が亢進され、これらの症状が増悪することがある。]</p> <p>⑤35歳以上で1日15本以上の喫煙者[心筋梗塞等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。]</p> <p>⑥前兆(閃輝暗点、星型閃光等)を伴う片頭痛の患者[前兆を伴う片頭痛の患者は前兆を伴わない患者に比べ脳血管障害(脳卒中等)が発生しやすくなるとの報告がある。]</p> <p>⑦肺高血圧症又は心房細動を合併する心臓弁膜症の患者、亜急性細菌性心内膜炎の既往歴のある心臓弁膜症の患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。]</p> <p>⑧血管病変を伴う糖尿病患者(糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症等)[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。]</p> <p>⑨血栓性素因のある患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。]</p> <p>⑩抗リン脂質抗体症候群の患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。]</p> <p>⑪手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内及び長期間安静状態の患者[血液凝固能が亢進され、心血管系の副作用の危険性が高くなる可能性がある。]</p> <p>⑫重篤な肝障害のある患者[代謝能が低下しており肝臓への負担が増加するため、症状が増悪することがある。]</p> <p>⑬肝腫瘍のある患者[症状が増悪することがある。]</p> <p>⑭脂質代謝異常のある患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。また、脂質代謝に影響を及ぼす可能性があるため、症状が増悪することがある。]</p> <p>⑮高血圧のある患者(軽度の高血圧の患者を除く)[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。また、症状が増悪することがある。]</p> <p>⑯耳硬化症の患者[症状が増悪することがある。]</p> <p>⑰妊娠中に黄疸、持続性そう痒症又は妊娠ヘルペスの既往歴のある患者[症状が再発するおそれがある。]</p> <p>⑱妊婦又は妊娠している可能性のある患者</p> <p>⑲授乳婦</p> <p>⑳骨成長が終了していない可能性がある患者[骨端の早期閉鎖を来すおそれがある。]</p>

相互作用	本剤作用増強 エトラピリン、フルコナゾール 他剤作用増強 副腎皮質ホルモン(プレドニゾロン等)三環系抗うつ剤(イミプラミン等)、セレギリン塩酸塩、シクロスポリン、テオフィリン、オメプラゾール 本剤他剤作用増強 ボリコナゾール 本剤作用減弱 リファンピシン、バルビツール酸系製剤(フェノバルビタール等)、ヒダントイン系製剤(フェニトインナトリウム等)、カルバマゼピン、グリセオフルビン、ボセンタン、モダフィニル、トピラマート、テトラサイクリン系抗生物質(テトラサイクリン等)、ペニシリン系抗生物質(アンピシリン等)、テラプレビル、HIV感染症治療薬、HIVプロテアーゼ阻害剤(ネルフィナビルメシル酸塩、リトナビル、ダルナビル)、非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤(ネビラピン)、セイヨウオトギリソウ(St.John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品 他剤作用減弱 Gn-RH誘導体(ブセレリン酢酸塩等)、血糖降下剤(インスリン製剤、スルフォニル尿素系製剤、スルフォンアミド系製剤、ビグアナイド系製剤等)、ラモトリギン、モルヒネ、サリチル酸 本剤副作用増強 テルビナフィン塩酸塩 その他 アセトアミノフェン
副作用	重大な副作用 血栓症、アナフィラキシー その他 不正性器出血、希発月経、頭痛、悪心、月経過多 等

(薬品名)	スミスリンローション 5%	市販直後調査 平成 26 年 8 月～平成 27 年 2 月
(英名)	SUMITHRIN Lotion 5%	
(規格・含有量)	1g中、フェノリン50mgを含有	
(一般名)	フェノリンローション	
(メーカー名)	クラシエ	
【薬価収載日】	2014年5月	
【薬価】	1g: 77.30円	
【薬効コード】	876429	
【薬効分類名】	駆虫剤	
効能・効果	疥癬	
用法・用量	通常、1週間隔で、1回1本(30g)を頸部以下(頸部から足底まで)の皮膚に塗布し、塗布後12時間以上経過した後に入浴、シャワー等で洗浄、除去する。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
副作用	その他 皮膚炎、AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇 等	

(薬品名)	ルセフィ錠 2.5mg	市販直後調査 平成 26 年 5 月～平成 26 年 11 月
(英名)	Lusefi tab. 2.5mg	
(規格・含有量)	1錠中、ルセオグリフロジン2.5mgを含有	
(一般名)	ルセオグリフロジン水和物	
(メーカー名)	大正富山	
【薬価収載日】	2014年5月	
【薬価】	1錠:205.50円	
【薬効コード】	873969	
【薬効分類名】	選択的SGLT2阻害剤－2型糖尿病治療剤－	
効能・効果	2型糖尿病	
用法・用量	通常、成人にはルセオグリフロジンとして2.5mgを1日1回朝食前又は朝食後に経口投与する。なお、効果不十分な場合には、経過を十分に観察しながら5mg1日1回に増量することができる。	
禁忌	①重症ケトosis、糖尿病性昏睡又は前昏睡の患者[輸液及びインスリンによる速やかな高血糖の是正が必須となるので本剤の投与は適さない。] ②重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者[インスリン注射による血糖管理が望まれるので本剤の投与は適さない。] ③本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	他剤作用増強 利尿薬(ループ利尿薬、サイアザイド系利尿薬等) 本剤作用減弱 血糖降下作用を減弱する薬剤(アドレナリン、副腎皮質ホルモン、甲状腺ホルモン等) 本剤他剤副作用増強 糖尿病用薬(スルホニル尿素系、ビグアナイド系、チアゾリジン系、DPP-4阻害薬、 α -グルコシダーゼ阻害薬、速効型インスリン分泌促進薬、GLP-1受容体作動薬、インスリン製剤等)血糖降下作用を増強する薬剤(β -遮断薬、サリチル酸系薬剤、MAO 阻害薬、フィブラート系薬剤等)	
副作用	重大な副作用 低血糖、腎盂腎炎 その他 、頻尿、低血糖症、尿中 β ミクログロブリン増加 等	

(薬品名)	ザクラス配合錠 HD	劇 市販直後調査 平成 26 年 5 月～平成 26 年 11 月
(英名)	ZACRAS Combination Tablets HD	
(規格・含有量)	1錠中、アジルサルタン20mg及びアムロジピンとして5mg(アムロジピンベシル酸塩 6.93mg)を含有	
(一般名)	アジルサルタン/アムロジピンベシル酸塩配合錠	
(メーカー名)	武田	
【薬価収載日】	2014年5月	
【薬価】	1錠:140.60円	
【薬効コード】	872149	
【薬効分類名】	持続性AT ₁ レセプターブロッカー/持続性Ca拮抗薬配合剤	
効能・効果	高血圧症	
用法・用量	成人には1日1回1錠(アジルサルタン/アムロジピンとして20mg/2.5mg又は20mg/5mg)を経口投与する。本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない。	
禁忌	①本剤の成分あるいは他のジヒドロピリジン系薬剤に対する過敏症の既往歴のある患者 ②妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 ③アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病患者(ただし、他の降圧治療を行ってもなお血圧のコントロールが著しく不良の患者を除く)[非致死性脳卒中、腎機能障害、高K血症及び低血圧のリスク増加が報告されている。]	
相互作用	本剤作用増強 CYP3A4阻害剤(エリスロマイシン、ジルチアゼム、リトナビル、イトラコナゾール等)、グレープフルーツジュース 他剤作用増強 シンバスタチン 本剤他剤作用増強 降圧作用を有する他の薬剤、利尿降圧剤(フロセミド、トリクロルメチアジド等) 本剤作用減弱 非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAIDs)・COX-2選択的阻害剤(インドメタシン等)、CYP3A4誘導剤(リファンピシン等) 本剤副作用増強 アルドステロン拮抗剤・カリウム保持性利尿剤(スピロラクトン、トリアムテレン、エプレレノン等)、カリウム補給剤(塩化カリウム等)、アリスキレンフマル酸塩 他剤副作用増強 リチウム 本剤他剤副作用増強 アンジオテンシン変換酵素阻害剤、非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAIDs)・COX-2選択的阻害剤(インドメタシン等)	
副作用	重大な副作用 血管浮腫、ショック、失神、意識消失、急性腎不全、高カリウム血症、肝機能障害、黄疸、血小板減少、白血球減少、房室ブロック その他 体位性めまい、浮動性めまい、血中尿酸増加、血中クレアチンホスホキナーゼ増加、高尿酸血症 等	

削除医薬品通知

キサンボン S 注射液 20 mg/2.5mL	使用量減少の為 11/1 削除
ルナベル配合錠 LD	使用量減少の為 11/4 削除
エンペシド外用液 1%10mL	使用量減少の為 11/4 削除
スターシス錠 90 mg	使用量減少の為 11/4 削除
ユニシア配合錠 HD	使用量減少の為 11/4 削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
アロシトール錠 100 mg	ザイロリック錠 100 mg
ロキソプロフェン Na ゲル 1%「NP」 25g	ロキソニンゲル 1% 25g
リドカイン塩酸塩注 1%「日新」 100 mg/10mL	キシロカイン注ポリアンプ 1% 100 mg/10mL

適応追加通知

イマチニブ錠 100mg「ヤクルト」	<p>【効能・効果】</p> <p>1. 慢性骨髄性白血病</p> <p>2. フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病</p> <p>【用法・用量】</p> <p>1. 慢性骨髄性白血病の場合</p> <p>(1) 慢性期 通常、成人にはイマチニブとして1日1回 400mg を食後に経口投与する。なお、血液所見、年齢・症状により適宜増減するが、1日1回 600mg まで増量できる。</p> <p>(2) 移行期又は急性期 通常、成人にはイマチニブとして1日1回 600mg を食後に経口投与する。なお、血液所見、年齢・症状により適宜増減するが、1日 800mg(400mg を1日2回)まで増量できる。</p> <p>2. フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の場合 通常、成人にはイマチニブとして1日1回 600mg を食後に経口投与する。なお、血液所見、年齢・症状により適宜減量する。</p>
--------------------	--